

平成 19 年度第 2 回新潟空港アクセス改善検討委員会を 開催しました。

県では空港アクセス改善の段階的取組の実施に向け、超短期・短期等の取組についての継続的な評価・提言や、将来の社会情勢の変化等に対応したシナリオの再評価、見直し等の検討を行うため、有識者による「新潟空港アクセス改善検討委員会」を設置し、検討を進めています。

本日、平成 19 年度第 2 回委員会を開催しました。会議の概要は以下のとおりです。

記

1. 日時・場所

平成 19 年 9 月 20 日(木) 9:30~ 11:30

新潟県自治会館 別館 9 階 902 会議室 新潟市中央区新光町 4- 1

2. 委員の構成 添付資料のとおり

3. 主な議論・発言

(1) 超短期的取組について

空港バスの新潟駅万代口乗入れについて

- ・ 万代口駅前広場内の路面表示実施により広場内の混雑状況が改善されたことについて、事務局から報告を行い、了承いただいた。

主な委員意見

- 安いコストで多大な効果が出ている良い例になる。

(2) 短期的取組について

新潟駅南口発着空港バス新設案について

- ・ これまでの空港アクセス緊急プロジェクト会議等での議論や、空港アクセス改善検討委員会での提案を踏まえ、南口バス新設の場合に想定されるルート 運行頻度、運行車両等の運行形態、運賃支払い方法等の提供サービス等について、事務局から説明を行い、意見交換を行った。
- ・ 併せて 7 月 15 日から行っている空港バスの運行頻度アップ社会実験について、事務局から中間報告を行い、新潟空港発のバス利用者が増えており 乗り継ぎに関連する待ち時間、運行本数について、利用者の評価が改善されていることを報告した。

主な委員意見

【新潟駅での乗降口、ルート案について】

- アンケート調査の結果を見ると、路線バスと直行バスの混在に問題があるのではないか。沿線の生活利用者は万代口から、空港利用者は直行で南口からという考え方もある。
- 駅の両側からバスが出ていると利用者が混乱する。場所を分けるよりもバス車両タイプが違うことの告知を徹底すれば良いのでは。20 分に 1

本出ていれば、利用者が乗りたい車両に合わせてバスを選ぶことも可能。

- 現行の空港バスは最短ルートを通っている。利用者は万代口側の方が多
いのではないか。万代口と南口の利用者の状況を把握すべき。
- ターゲットをはっきりしたほうが良い。市内や近隣の利用者は車を利用
することが多い。他の空港へ逃げていた客をターゲットとして鉄道から
の乗り換え利便性を高めるのが良いのではないか。
- 現行の万代口では鉄道（特に新幹線）からバス乗り場への移動距離が長
く、万代口バスターミナルでは悪天候時に不便を強いられている（事務
局）。現行の万代口はエスカレーター設備がなく不便。

【運行車両タイプについて】

- 車両タイプの検討にあたっては、コスト、採算性も含めて議論する必要
がある。

【運賃支払い方法の改善について】

- 空港バスの自動券売機を設置するのも良いが、費用が高いのではないか。
人員を配置したり、回数券の販売を徹底したほうが良いのではないか。
- 人員を配置する方がむしろ高くなるのでは。
- 外国語対応を考えると自動券売機をバスの近くに設置したほうが良い。

【その他】

- 政令指定都市にある空港の中で、新潟空港は、福岡空港に次いで、距離
が近く便利な空港であることをPRする必要がある。
- 空港の利便性の印象はイグレス（空港から駅等目的地へ）によるものが
大きい。イグレスの利便性を高めるべき。
- アンケートの不満足意見を広く拾って、改善を図って欲しい。

(3) 中・長期的取組について

- ・ 軌道系による中・長期アクセス案（臨港貨物線活用案、在来線活用案、新幹線活
用案）の実現化に向けた課題の整理・検討を行うため、本年6月に設置した鉄道事
業者を交えた実務レベルの勉強会（空港アクセス中・長期的改善に係る勉強会）
構成メンバー：JR東日本、JR貨物、県、新潟市）での検討状況について、事務局から
報告を行った。

主な委員意見

- 新潟駅に空港アクセス線が入る容量があるのかが非常に重要な
ポイントである。それにより前提条件が大きく変わってくるので、勉強
会での検討を進めていただきたい。

本件についての問い合わせは
交通政策局港湾振興課企画班 内線 3458
担当：中川、原田、覚張（がくはり）までご連絡ください。